

総合政策学部車内公開講座 Vol.4

いろんな分野があるから
教養なんだ



杏林大学

総合政策学部

入学センター TEL.042-691-8613(直)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/>
オープンキャンパス
7/28(土)、8/18(土)、8/25(土)

西／企業の環境への取り組みが、近年、大きく変わってきていますね。

木村／いわゆる公害対策に見られた「**対策的取り組み**」から、あらかじめ環境へ配慮することで企業評価向上を目指す「**戦略的取り組み**」に変わり、それがさらに企業の収益に結びつく「**ビジネスとしての取り組み**」に変わってきています。それに加えて消費者の関心も高まり、先進国を中心に、**環境や社会問題に積極的に取り組む企業へ投資しよう**という

「**SR I (社会的責任投資)**」も定着してきています。
西／今や、最先端の環境技術をもつことは、その製品が業界標準になるチャンスにも結びつきますね。

木村／そうですね。環境問題があらたなビジネスの種を生み出し、「環境ビジネス」という巨大市場を出現させました。**環境ビジネスの市場規模は、2010年までに47、67兆円**になるとも予測されています。これは介護サービス産業の市場規模がおよそ10兆円、自動車産業がおよそ40兆円であることを考えると、いかに大きな規模であるかがわかります。

西／環境への取り組みとビジネス・チャンスが両立するというのは、望ましいことではないですか？

木村／ただし、**環境ビジネスが拡大することは、それに比例して地球環境が改善されることを意味しません**。たとえば、リサイクル・ビジネスの拡大は、廃棄物の総量が減少することを意味するものではありません。エコカーやエコ商品の販売量が増えることもまた、私たち社会全体の資源やエネルギーの消費量を抑制することとイコールではありません。私たちが

中には、本当のエコロジー、真に地球にやさしい活動を
動を見きわめる力が
必要となつてきています。

(文責・西、木村)

聞き手
総合政策学部教授 [経済学]
西 孝

語り手
総合政策学部講師 [経営学]
木村 有里

環境の経営学